

報道機関各位



武庫川女子大学
Mukogawa Women's University

Tel:0798-45-3533

kohos@mukogawa-u.ac.jp

武庫川女子大学の研究から生まれた 心理データ収集システム「こころん・サーモ」 西宮市の全小中学校で本格運用をスタート。

児童や生徒の心理状態を継続的に記録し、いじめ等の早期発見と予防に役立つシステム「こころん・サーモ」を武庫川女子大学と西宮市教育委員会が共同開発しました。2022年度から西宮市内の小学5年生から中学3年生までの全児童・生徒がタブレット端末を使った「こころん・サーモ」を実施しています。6月に運用にかかる協定書を両者で締結する予定です。学校不適應を探るアンケートや心理テストはありますが、義務教育期にある子どもたちの心の状態を定点観測する取り組みは全国でも例がありません。測定データから気になる兆候をいち早く把握し、これを生徒理解、生徒指導につなげる「西宮モデル」の構築に期待がかかります。

「こころん・サーモ」は体温計で体調を測るように、心の状態を可視化することができる画期的なシステムです。もともとなったのは武庫川女子大学教育研究所子ども発達科学研究センターの研究です。武庫川女子大学では「人がどのようにストレスから立ち直るか」を実証研究する中で、「ストレスの調整はソーシャルサポートや自己充足的達成動機など複数の因子が相互作用してなされる」という理論を構築しました。これを応用して、児童・生徒を対象とする心のチェックリストを作成しました。2016年から西宮市内の協力校で、紙に記入する形で実装試験を繰り返し、タブレットを用いたシステム構築につなげました。2021年9月から12月にかけて、西宮市の小学5年生から中学3年生までの児童・生徒に順次試行し、2022年度から本格的に導入しました。

「こころん・サーモ」では、子どもたちは「学校のことで困ったときに相談できる友だちや先生、家族はいますか」「先生に怒られたときは、いやな気持ちが続きますか」

など 34 の問いに、「全くそう思わない」「あまりそう思わない」「少しそう思う」「とてもそう思う」の 4 択で回答。その結果が、「ソーシャルサポート」「心理的脆弱性」「自尊心」など 12 の指標に反映されたレーダーチャートで表されます。一人ひとりの平均値とともに、クラスや学年の平均値とも比較することができます。

アンケートは年 2 回以上実施します。児童生徒のアンケートは学籍番号と紐づく接続可能匿名化 ID で管理され、中学校卒業まで蓄積されます。教員はチャートの形が大きく崩れると、「何かあったのでは」といち早く気づき、声をかけるなど対処が可能になります。小学校から中学校への進学や進級による担任の交代があっても、一人ひとりの状態を切れ目なく追跡することができます。

紙でのアンケートやデータ処理されていないケースでは、回答から結果が導き出されるまで時間がかかりますが、こころん・サーモは、即時フィードバックが可能です。データは教員のみが閲覧でき、データ解析等で出力する際は個人名や校名が識別できないように処理します。

西宮市教委では、「研究に基づき、構造が確認された確かなアンケート尺度であり信頼性があります。今後も引き続き、武庫川女子大学の研究と連携し、改善を重ねながら西宮モデルを構築していきたい」として、教員有志の研究グループを立ち上げ、こころん・サーモの結果を指導にどのように生かしていくのかなどを検討する予定です。武庫川女子大学教育研究所の河合優年所長（副学長）は「こころん・サーモを定期的を使うことで、一人ひとりの心の“平熱”がわかり、教師の経験則では予測しきれない変化にも気づくことができます。データを集積することで西宮標準の”体温計”を開発していきたい」と話しています。

「こころん・サーモ」は、武庫川女子大学の研究は心理・社会福祉学科の佐藤安子教授と教育研究所の河合優年所長が開発した尺度「ストレス自己統制評定尺度：SSI」がもとになっています。

この件についてのお問い合わせは

武庫川女子大学広報室（TEL：0798-45-3533）

西宮市教育委員会教育研修課（TEL：0798-35-2864）

までお願いします。

1 学校のことで困った時に相談できる友だちや先生、家族はい
ますか。

まったくそう思わない



あまりそう思わない



少しそう思う



とてもそう思う



選択したら、「グーマーク」が「パーマーク」にかかります。

画面イメージ